

JLT220 日本の近代文学

2年 3,4クォーター

担当教員 中川 智寛

授業形態 講義

単位数 2

曜日・時限 火曜日・4時限

授業概要

本科目においては、国文学、とりわけ日本の近現代文学を学習する上で必要な基礎的な知識と、解釈・批評に関する基本的な方法の習得をめざすとともに、それらを作品の鑑賞・理解に応用できることを授業の目標とする。具体的には、日本近世・近代文学についての歴史的知識に基づき、近世期から明治・大正・昭和前期の作家とその代表的作品を概観し、鑑賞と批評の観点から、その具体的な作品に触れつつ、作家と作品の特質についての理解を深める。併せて、近代文学の成立と展開について考える。

到達目標

時代背景や作者の特質を押さえながら、自分なりの鑑賞眼を養う事。

先修科目

なし

教科書・参考資料等

特にないが、事前に読了が求められるものがあれば、余裕をもってアナウンスする。

授業の方法

原則、講義形式。

成績評価

筆記試験を基にし、毎授業時に作成・提出してもらうリアクション・ペーパーの内容で平常点を加味する。

成績

平常点の割合は最大で30%とする。

授業スケジュール

- 第1回： ガイダンス、進行方法・評価方法・参考文献の説明
- 第2回： 志賀直哉「城の崎にて」、私小説の定義
- 第3回： 白樺派と芸術との関連
- 第4回： 第3回の続講、特に芸術サイドの動向
- 第5回： 歴史小説と時代小説
- 第6回： 芥川龍之介「開化の殺人」、開化期の文学
- 第7回： 菊池寛「形」、近代文学における菊池の役割
- 第8回： 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」、プロレタリア文学の実態
- 第9回： 安部公房「空飛ぶ男」、安部の文学と映像の関係性
- 第10回： 俳画研究 野々口立圃、西山宗因など
- 第11回： 俳画研究 松尾芭蕉、森川許六など
- 第12回： 俳画研究 正岡子規、高浜虚子など

第13回： 近現代詩 長田弘、寺山修司など

第14回： 近現代詩 山本陽子など

第15回： 試験

事前・事後学習

事前に読了を課された作品・参考文献がある場合には、それに従う事。